

すこやかだより

特 別 号

「ウクライナの子ども」



ウクライナの子どもが大変なことになっています。リビウの街には主のいないベビーカーが109台並んでいました。キエフ近郊の施設から障害を持った乳幼児を70人以上救出したという報道もありました。

日本国内には「死ぬくらいなら、一旦降伏して、後でやり直せばいいのに」という意見を言う識者もいました。「後があると思っているのか？それこそ平和ボケだろう」というウクライナの人たちの反論もあります。ウクライナの一部には、外国に占領されるなら最後まで戦うという人たちがいることは事実です。しかし多くの国民は、戦うのも死ぬのも嫌なことは間違いないでしょう。でもつい一週間前までは普通の平和な日常を送っていたのに、決然と「嫌だけれど戦う」という人がいるのです。その決断をただのヒロイズムと決めつける事は私にはできません。

ウクライナの難民を現在二百万人近く受けいているポーランドのヤヌシュ・コルチャックは、子供の権利を訴えその尊重を実践した小児科医でした。彼の設立したホームではその運営を子どもたちの自治によって行いました。ホームでは子どもたちを見守り、尊重し、個性を伸ばして育てるために、子どもたちによる「子どもの議会」「子どもの裁判」「子どもの法典」という3つの柱の活動と、問題のある児を自分たちで助けていく指導（ガイダンス）委員会が実践されました。

大阪乳児院

院長 大和 謙二



しかし、そのコルチャック先生はナチス占領下の一九四二年八月六日にトレ布林カで子どもたち209名と一緒に殺されたのです。これを歴史の経験として引き継いでいる人たちにとつて、後があるなどと簡単に考えることはできません。それは自分に後がないだけではなく、自分たちの子どもにも後がないということなのです。それからおよそ百年後の日本の中学高校で、ようやく無意味な校則の排除が始まりました。また教育であるはずの高校野球でようやく誤審が間違いとして訂正されるようになりました。子どもの権利がやっと認められはじめたのです。

どのような理由があつたとしても、普通に認められている他者の権利を尊重できない世界にはたくありません。私も、今回が最後のすこやかだよりになりました。時々読んでますよと言っていただけことが励みでした。ウクライナの子どもたちにも少しでも早く平和が訪れることを願いつつお別れですね。みなさんお元気で、今後子どもたちのためのご尽力をお願いいたします。ありがとうございました。

大阪乳児院基本理念

- ・子どもの最善の利益を守ります
- ・社会的養護の立場から、地域社会と協力して、子どもとご家族を支援します
- ・子どもを一人の人格として尊重し、その権利を守ります。



この度は、大和先生の退職に際し
すこやか特別号を発刊させていただきました！

皆の手形で
お花のブーケを
作ったよ！

ひよこ

こくま

うさぎ

ぞう

大和先生4年間ありがとうございました

64ページにわたる
思い出のアルバム

とっても優しい大和先生が
子ども達も大好きでした。

皆の手形で
花束を作ったよ！

措置入所された4年前
そして今日措置解除
いたします

みんなの手形に
似顔絵を貼ったよ！

きりん